

都市構造可視化計画サイトと 独自データを組み合わせた分析

～新たな浸水リスク分析～



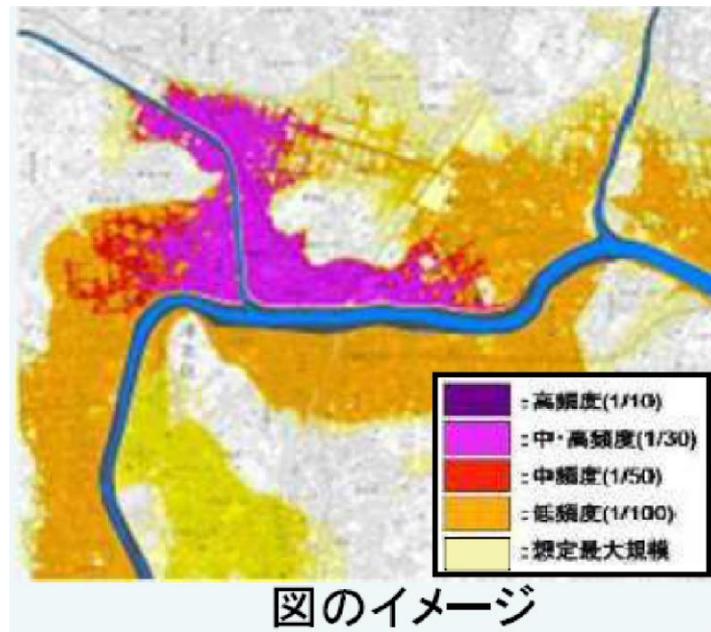
埼玉県マスコット
「さいたまもっち」

埼玉県 都市計画課

1.水害リスクの「見える化」

国や県により、これまで想定最大規模降雨による「洪水浸水想定区域図」が公表されてきたが、新たに国より、発生頻度が高い降雨規模を想定した「多段階の浸水想定図」及び「水害リスクマップ」が公表された。

県においても、庁内河川担当課にて、県管理下の河川についても「中高頻度の水害リスク情報図」の作成を進めている。

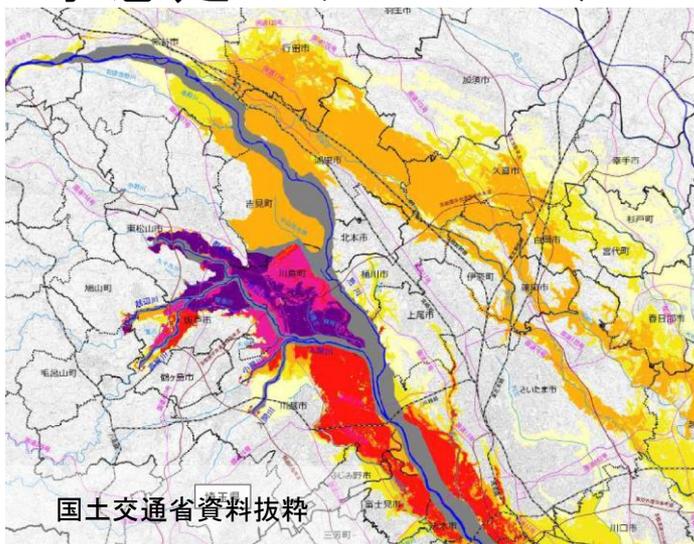


国土交通省HPより

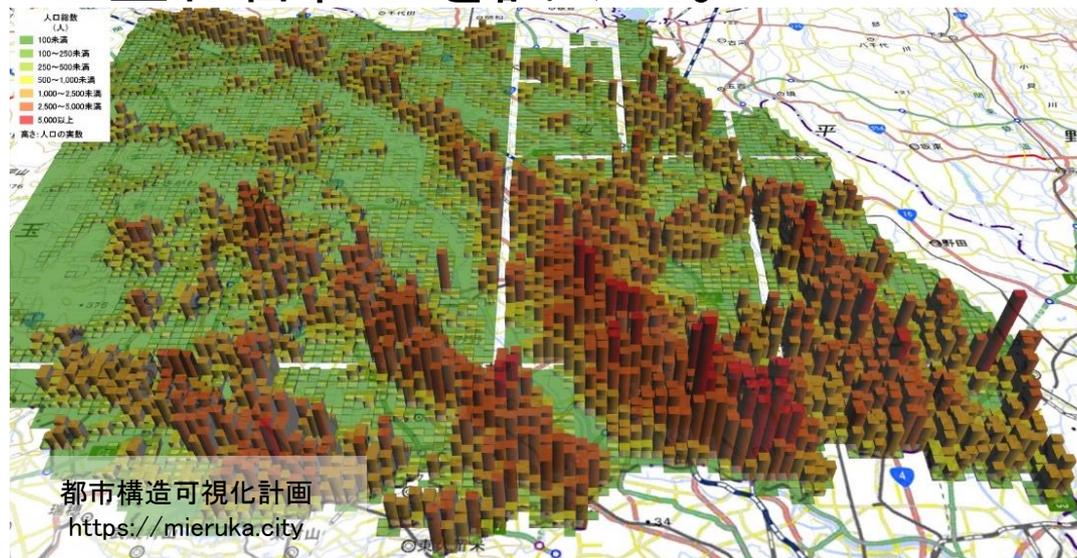
2.人口分布によるリスク検証に向けて

庁内の河川担当課が作成中の「中高頻度の水害リスク情報図」について、将来的に人口データを組み合わせたりリスク検証を行うことで、まちづくりや防災対策などの参考になるものと考えた。

そこで、庁内では人口分布のkmlデータを保有しており、浸水想定サンプルデータと重ね合わせを試みた。



浸水想定データ

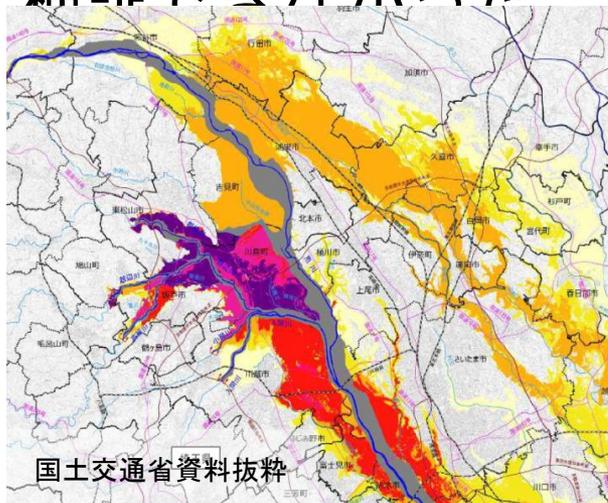


庁内保有データ

補注:都市構造可視化計画、地理院地図を使用

3. 検証の難航

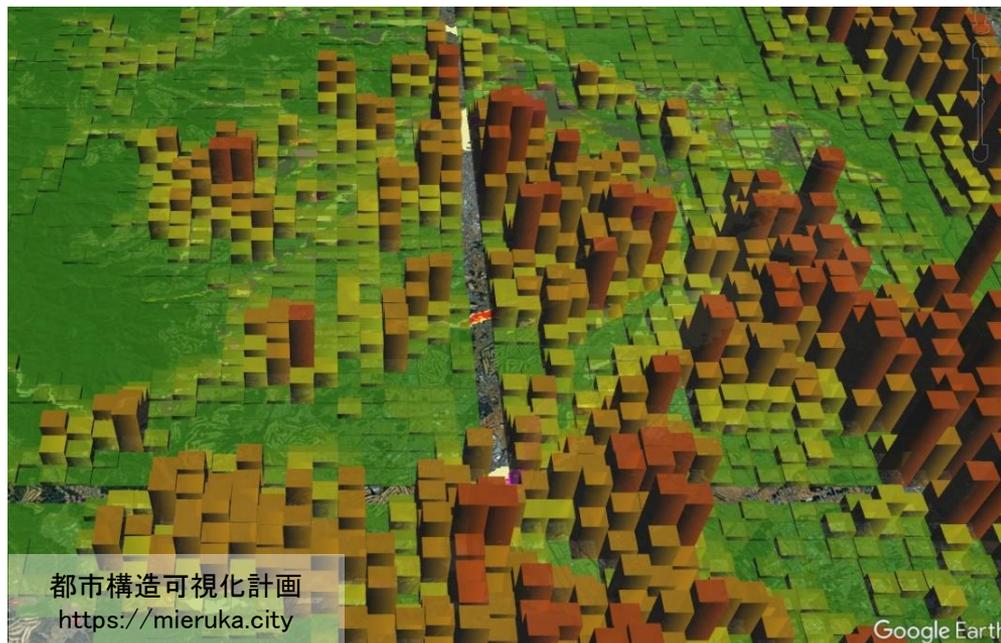
浸水想定サンプルデータは地図上に範囲を示すのみのデータであり、Google Earthを利用し、人口データを重ねたが検証できなかった



浸水想定データ（イメージ）



浸水想定の色が
隠れてしまう



人口データ重複

4.再検証に向けた作業

浸水想定サンプルデータに人口データを付与し、kmlデータを作成した。また、浸水頻度と浸水深を組み合わせた情報を付与することで、様々なデータを作成できることが分かった。

浸水・人口データの整理

	中低 R100	中 R050	中高 R030	高 R010
低 riskmap01	浸水頻度 ⇒			
中 riskmap02	浸水深			
高 riskmap03	⇓			



浸水頻度・浸水深
共に高いエリア

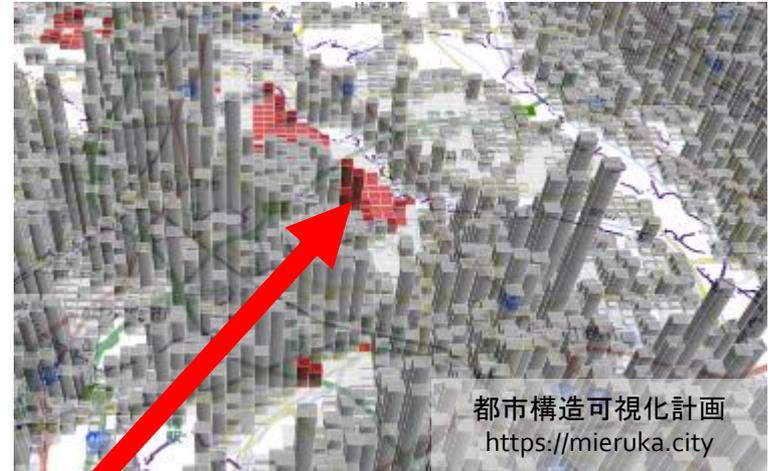
5.河川担当者との情報共有

河川担当者と情報共有を行った。

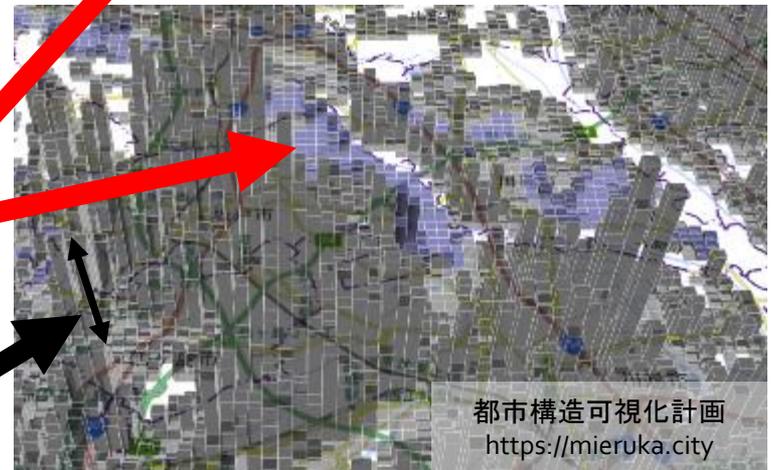


河川担当者との打合せ

完成データイメージ



都市構造可視化計画
<https://mieruka.city>



都市構造可視化計画
<https://mieruka.city>

浸水想定エリアを塗りつぶし

人口を高さで表現

【イメージ上・下】

補注:都市構造可視化計画、地理院地図を使用

6. 今後の活用について

まちづくりの参考資料として利用できる可能性

今回の作業は、サンプルの浸水データを利用したもので、今後、多段階の浸水想定データが整備された際には、人口データを組み合わせた検証を行いたい。また、kmlデータを広く共有し活用していきたい。

例えば・・・

- ・市町村へ情報提供し、立地適正化計画における誘導区域を設定する際の参考にしていただく。
- ・まちづくりや防災部局へ情報提供し、参考としてもらうことで災害に強いまちづくりを推進していく。

など



埼玉県マスコット「コバトン」

